

『古事記』ヤマタノヲロチの指導案

東京都立桐ヶ丘高等学校 保戸塚 朗

●この指導案について

この指導案のポイントは、

- 1 『古事記』を入門期に扱うことよって、古典の想像力豊かな世界に触れさせること。
- 2 現代語訳を活用することよって、言語的抵抗感なく鑑賞を深めること。
- 3 原文に立ち返ることよって、古典の文体の美しさに触れること。

の三点である。つまり、現代語訳を活用して「古典に親しむ態度」を養うことを第一の目標とするが、同時に「(1)音読を通して味わい」というレベルでの「原文を読む」力を養うことを目指している。また、アニメ的ともいえる幻想的なシチュエーションの背後に、現実への強烈な関心とその世界を知的に理解しようとする哲学があること、つまり、ヤマタノヲロチの話を「人類最古の哲学としての神話」(レヴィ・ストロース)としてを読み取ること、古典世界のつきない魅力を知的に伝えようとする意図もある。生徒の感性と知的興味に訴え、古典に親しむ態度を養う指導を、ある程度スピード感を持って目指したい。

なお、指導案作成にあたっては、

①具体的な発問例 ②評価規準

に対しても工夫を試みた。特に、評価規準に関しては、具体的な行動目標(イラストを書く・現代語訳と原文を読む・自分で考える・暗誦する)・具体的な評価判断の仕方(イラストを完成できる・内容が理解できる・考えを書いてまとめられる・歌を暗誦できる)という書き方をとり、指導目標との関連を明確にすることに努めた。

●古事記の教材性

(1)『古事記』という作品の教材性

『口語訳 古事記(完全版)』(文藝春秋、二〇〇二)の著者三浦佑之氏は、同書が受け入れられた背景を次のように分析している。長くなるが引用する。

「思ってもいないことでしたが、『口語訳 古事記(完全版)』(文藝春秋、二〇〇二)という本を出したところ、たくさんの方に読んでいただくことができました。そのせいでしょうか、なぜ今、古事記が読まれるのかと尋ねられることがしばしばありました。おそらく質問者の意図としては、近年の保守化傾向と重ねて、あるいはグローバル化する世界への違和感とつなげて、今、古事記が読まれることの意味を考えたいという気持ちがあるのかも知れません。そしてたしかに、そうした読解も可能かも知れませんが、一方で、もっとすなおに、神話の楽しさに気づいてもらえたからではないかとわたしは思っています。」

古事記という作品に語られている神や人の考えや行動が、今ここに生きているわたしたちにとって共振できることが多いというのが魅力だったのではないのでしょうか。語られている内容は突拍子もない出来事が多いのですが、そこからは、この大地の上に生きた人びとの息づかいが聞こえてきそうな感じがします。それは、古事記に登場する神や人がいずれも個性的で、喜怒哀楽に満ちているからです。そのため、堅苦しい本かと思っていたのに、現代の小説やマンガを読むのとおなじように古事記も楽しめるじゃないか、と気づいてくださったのだと思います。」

(三浦佑之『古事記講義』文藝春秋、二〇〇三、7頁)

ここには、『古事記』の教材性が簡潔に述べられているといえよう。

さらに、今回の指導案では提案していないが、もともと『古事記』が同書で三浦氏の指摘するように、口と耳による伝承の累積であるとするなら、「話すこと・聞くこと」の指導との密接な連携を模索することも可能となるのである。

(2) 『古事記』の入門期教材としての教材性

入門期の教材としては、言語的な面から内容的な面からも、我々の生きている時代に近い近世の諸作品を活用するのがよいという考え方や、破綻のない基本的な文法にもとづく安定した作品がよいといった考え方が主張されてきた。『古事記』はその点についていえば、現代からは最も遠く隔たった時代の作品であり、また、上代の（教育現場ではあまり一般的ではない）文法に則っているといった点から、入門期の作品としては扱いにくいとされてきたのが現状である。そのため、「国語総合」や「古典講読」では『古事記』を採り上げた教科書はないし、読むことに重点を置いた「古典」でも、いわゆる「難しめ」の教科書の一部にしか採り上げられていないのが現状である。

確かに、原文だけを用いた授業をする場合は、かなり言語的な抵抗があるといえよう。しかし、ここでは現代語訳を中心に据えた授業を考えているのである。現代語訳の使用を前提とすると、言語的な抵抗の問題は当然軽減されるし、いわゆる「昔話」とも考えられる『古事記』の一部の話は、生徒たちにとって子どもの時から親しんでいるものといえるのである。また、ストーリーが「現代の小説やマンガを読むのとおなじように」（三浦前掲書）楽しめることも、入門期向けといえるだろう。

さらに、内容を理解した上で、音読を中心にして原文に取り組むことを考えると、語りの文体を持つ『古事記』は、その独特な語り口の魅力を持っており、内容と子ども生徒の感性に訴える教材性を備えていると考えられるのである。

●対象

東京都立K高等学校（いわゆる基礎学力充実校のレベル）

「国語総合」（4単位）選択者（在籍18名） 古典入門期の生徒

●生徒の実態

現任校は、東京都の高等学校改革の中で四年前に開設された新しいタイプの高等学校（チャレンジスクール）で、三部制単位制総合学科という特色を持っている。不登校などを経験した生徒を積極的に受け入れることを前提としているため、内申書や試験による選抜は行っておらず、面接と作文を中心にして入学者を決定している。（現在、在校生の約七割が不登校経験者）そのため、人間関係の構築や、自らの生活をコントロールすることを苦手とする生徒が多い。また、基本的な学力や学習習慣が身につけていない生徒がほとんどのため、いわゆる基礎学力充実校のレベルに相当するが、学習そのものに対する意欲は比較的高く、課題などは概してまじめに取り組む。

なお、前期に「説話」作品（「鳩と蟻のこと」「母子猿」「児の空寝」「養老の滝」）を8時間で扱っており、その際、歴史的仮名遣いの読み方に関する基本的な指導は終わっている。今回の授業までに時間が空いてしまったが、入門指導に続く指導となる。

●授業タイトル

神話の世界 「ヤマトノヲロチ」 〈神話の背景にあるもの〉

●教材

- ①『口語訳 古事記 完全版』（三浦佑之、文藝春秋、二〇〇二）四九〜五三頁
- ②『口語訳 古事記 完全版』（三浦佑之、文藝春秋、二〇〇二）百三〜百五頁
- ③「須佐之男命の大蛇退治」（教育出版「精選古典」）百四〜百七頁

●教材観

前述したように、『古事記』は従来から二年次後半、または三年次に学ぶ作品として位置づけられてきた。その中で、最も多く教材化されているのは「倭建命」の話である。「スサノヲの大蛇退治」がそれに続き、他に「海幸山幸」、「沙本毘古と沙本毘売」、「高行くや（速総別王と女鳥王）」、「枯野の琴」といった個所が教材化されてきた。

この中で、英雄物語といえるのは倭建命の話とスサノヲの話であるが、英雄としての姿が最も印象的に描かれるのは「倭建命」であろう。ただし、物語の基調が悲劇的な味わいにあり、あらずじを挿入しながらストーリーを追うとしても、入門期の生徒にとっては分量が多いといった点が問題となる。

それに対して、「スサノヲの大蛇退治」の場合は、英雄が活躍する冒険譚であり、その場面だけを取り出せるまともりがある（教科書ページにして、見開き4頁におさまる）。また、物語に象徴される内容を読み取るおもしろさや、ペルセウスⅡアンドロメダ型といった英雄神話類型の話に発展させられる可能性を持つこと、『淮南子』『搜神記』にも類話があること、さらに、「八雲立つ」の韻律的な表現の持つ抒情性に触れられる点なども兼ね備えており、教材としてさらに検討が深められるべきものといえよう。

●指導目標

- (1) 古文に親しむ態度を養う。
- (2) 「ヤマタノヲロチ」の話を理解する。
- (3) 神話の持つ意味について理解し、古典の奥深さを学ぶ。
- (4) 音読・暗誦により、古典の文体に触れる。

●時数 4時間（2時間連続×2回、1授業時間は45分）

【導入】

2時間

【展開2】

2時間（本時）

●指導過程

時	重点目標	学習活動	指導上の留意点・板書例
1	<p>【導入】</p> <p>1 神話の特質を理解する</p>	<p>(漢字演習)</p> <p>① 「コノハナノサクヤビメ」の現代語訳を音読する。</p> <p>② 指名音読する。</p> <p>③ 話の内容を簡単に確認する。</p> <p>④ この神話が表していることは何か、考える。</p> <p>⑤ 神話の特質をまとめる。</p> <p>⑥ 「古事記」について紹介する。</p>	<p>・『口語訳古事記（完全版）』103～105頁</p> <p>・登場人物（神）やあらすじについて、発問しながら確認してゆく。</p> <p>・この神話は、人間の寿命の起源について語っている。</p> <p>・神話Ⅱ自然の秩序や人生の意味などについての哲学的思考。</p> <p>・便覧などを活用する。</p>
2	<p>【展開1】</p> <p>1 ヤマタノヲロチの話を読む。</p> <p>2 ヤマタノヲロチの姿をイラストで表現する。</p>	<p>① 「ヤマタノヲロチ」の現代語訳プリントを範読する。</p> <p>② 指名音読する。</p> <p>③ 話の内容を確認する。</p> <p>④ ヤマタノヲロチの姿が描かれている部分を確認する。</p> <p>⑤ ヤマタノヲロチの姿をイラストで表現する。</p>	<p>・『口語訳古事記（完全版）』49～53頁</p> <p>・登場人物（神）や、大蛇退治の経緯について発問しながら確認してゆく。</p> <p>・自由に描かせる。</p> <p>・回収してプリントし、次回の授業時に提示する旨伝える（ペンネーム可）。</p>
3	<p>【展開2】</p> <p>1 ヤマタノヲロチの話の内容を理解する。</p> <p>2 ヤマタノヲロチの話の批評・鑑賞する。</p>	<p>(漢字演習)</p> <p>① 前時に学習したことを復習する。</p> <p>② 現代語訳プリントを音読する。</p> <p>③ イラストプリントを配布し、講評する。</p> <p>④ ヤマタノヲロチの大きさがどう描かれているか、注意を喚起する。</p> <p>⑤ この神話が表していることを考える。</p>	<p>・特に、神話の特質について思い出させる。</p> <p>・講評にあたっては、親しむ態度を養う観点からよい点を積極的に採り上げる。ただし、恐怖の対象であることは認識させる。</p> <p>・ヤマタノヲロチの表しているものを考える際、関連づける。</p> <p>・登場人物（神）の名前や、ヤマタノヲロチの形象に注目させる。</p>

4	<p>【まとめ】</p> <p>1 ヤマトノヲ ロチの話を 原文で読み 味わう</p> <p>2 「八雲立つ」 の歌を暗誦 する</p>	<p>⑥ 自分の考えを三十〜五十字程度 にまとめる。</p> <p>⑦ 自己評価する。</p>	<p>・ 回収してプリントし、次回の授業時に配布 する旨伝える（ペンネーム可）。</p> <p>・ 教育出版「精選古典」¹⁰⁴〜¹⁰⁷頁 ・ 「ぬ」「糸」の読み方、「追はえて」の「は」 などについて確認する。</p> <p>・ 読点ごとに区切って次々に読ませる。短い ので不得意でも取り組みやすく、かつ、緊 張感が持続する。</p>
---	--	---	--

● 具体的な展開例

△ 導入1V 神話に関する理解を深める

- 1 「コノハナノサクヤビメ」の現代語訳プリントを範読する。
* 三浦訳古事記の文体に慣れさせる。
- 2 音読する。
* 難しい語について、読みや意味を確認する。
- 3 話の内容を簡単に確認する。
発問例 登場人物（神）を挙げよ。
* アマツヒコヒコホノニニギ、オホヤマツミ、コノハナノサクヤビメ（カムアタツヒメ）、
イハナガヒメ
- 発問例** ヒコホノニニギに結婚を申し込まれたコノハナノサクヤビメはどうしたか。（どこに書か
れているか）
* 父が決めることだと伝えた。
- 発問例** オホヤマツミはどうしたか。（どこに書かれているか）
* さまざまな結納品とともに、姉のイハナガヒメも添えて嫁がせた。
- 発問例** ヒコホノニニギはどうしたか。（どこに書かれているか）
* 姉を親元に送り返してしまい、妹とのみ契りを交わした。
- 発問例** イハナガヒメを送り返されたオホヤマツミはどうしたか。（どこに書かれているか）
* 天つ神の御子の命は短くなるだろうと呪いの言葉を送った。
- 4 この神話が表していることは何か考える。
* 人間の寿命の短さ、寿命（死）の起源。
- 5 神話について解説する。

△ 板書例V

● 神話Ⅱ 自然の秩序や人生の意味などについての深い哲学のはじまり。

△ 導入2V 『古事記』に関する理解を深める

△ 板書例V

- 『古事記』
- 成立 七十二年（奈良時代）
稗田阿礼が暗誦していた帝紀（天皇の系譜など）と旧辞（伝説や歌謡など）を、太安万侶が文字で記録したもの。
 - ジャンル 歴史書

- 皇室の由来を天地創造のはじめから跡づけることで、支配の正当性を述べている。
- 諸氏族に伝わる伝承や歌謡を集めてあり、古代の人々の生活感情や考え方がうかがえる。

* 入門期なので、例えば日本書紀との比較をするなどといった扱いは必要はないが、古代の伝承が伝えられている点を理解させる。

* 「皇室の由来を」以下の内容については、適宜扱い方をその場で判断する。

△展開1V話の内容を理解し、ヤマタノヲロチのイメージを広げる

1 ヤマタノヲロチの現代語訳プリントを範読する。

2 指名して音読する。

* 難しい語について、読みや意味を確認する。

3 話の内容を簡単に確認する。

発問例 出雲の国は現在の何県か。

* 島根県。

発問例 登場人物（神）を挙げてみよ。

* スサノヲ、アシナヅチ、テナヅチ、クシナダヒメ、ヤマタノヲロチ

発問例 出合いのきっかけは何か。

* 箸が川上から流れてくること。

発問例 なぜ足名稚と手名稚は泣いているのか。（どこに書かれているか）

* 毎年娘をヤマタノヲロチに食べられてしまい、今年も間もなくクシナダヒメが食べられてしま
いそうだから。

発問例 ヤマタノヲロチはどのように描写されているか。（どこに書かれているか）

* 「その目はアカカガチのごとくに血を垂らしております」

発問例 ヤマタノヲロチの話を聞いたスサノヲはどのような提案をしたか、また、その提案を聞いた足名稚はどうしたか。（どこに書かれているか）

* ヤマタノヲロチを倒すかわりに娘がほしい。スサノヲの身分を確かめた上で承諾した。

発問例 櫛名田比売を得たスサノヲは、比売をどうしたか。（どこに書かれているか）

* 美しい櫛に変えて、自らの髪に刺した。

発問例 スサノヲはどうしると指示したか、また、それは後にどうする予定だったからか。

* 垣根を巡らし、その八つの入口に、それぞれ強く醸した酒を入れた酒船を置いて待て。ヤマタノヲロチを酔わせて抵抗できなくしてから切り刻もうとした。

発問例 スサノヲはヤマタノヲロチから何を手に入れたか。（どこに書かれているか）

* ツムガリの刀。

発問例 宮をつくって、どうするつもりなのか。

* クシナダヒメと結婚する。

発問例 なぜ「須賀」という地名がついたのか。

* スサノヲがその地に至った時に、清々しい気持ちになったから。

4 ヤマタノヲロチの姿が描かれている部分を指摘する。

5 ヤマタノヲロチの姿をイラストで表現する。

* 文章の内容を絵画化することがポイントであり、絵の巧拙は問わないことを伝える。

* 回収してプリントし、次回の授業に提示する。

△展開2V話の内容を批評（鑑賞）する

1 前回の授業内容について（特に神話の特質について）、簡単に復習する。

2 現代語訳プリントを音読する。

3 ヤマタノヲロチのイラストプリントを配布し、簡単に講評する。

発問例 どの絵が本文と読み比べてよく描けていると思うか。

* 古典の時代にヤマタノヲロチを絵画化したものは現存していない。出雲・石見地方で行われている「大蛇退治」をモチーフにした神楽が、唯一のヤマタノヲロチに関するビジュアル情報である。ただし、これも幕末程度までしかさかのぼれないようである。

*講評にあたっては、親しむ態度を養う観点からよい点を評価する。ただし、ここでのヤマタノヲロチは恐怖の対象になってるので、その点に関してはしっかりと認識させたい。

4 ヤマタノヲロチの大きさがどれくらいなのか、考える。

発問例 「谷を八つ、山の尾根を八つ」とあるが、ヤマタノヲロチを退治する場面では、ヤマタノヲロチはどれくらい大きさと想像されるか。

* 絵画化のヒントとした部分には、「谷を八つ、山の尾根を八つも渡るほど大きく」とあるが、酒船から酒を飲む場面や切り刻まれる場面からは、当然のことながらそれほど大きな大きさは想像されない。そこには、普段は静かな流れの川が、増水などによって大きく印象を変えることが形象されているのかも知れないが、ここでは合理的な説明を考えるのではなく、そのように描かれていることを確認し、後にヤマタノヲロチが表しているものを考察する際に結びつけるようにする。

5 クシナダヒメが「奇稲田姫」とも表記され、「稲を育てる田を象徴する女神」と読み取れることを紹介する。

* 『古事記』は「櫛名田比売」、『日本書紀』は「奇稲田姫」とする。

6 アシナヅチ・テナヅチという名は、どのように読み取れるか考える。

発問例 足・手とあり、「チ」が二人が神であることを示す言葉(「チ」は、イカズチ(雷)の「チ」、イノチ(命)の「チ」で霊的な威力を示す)だとすると、この二人の名はどんな意味を表しているかと想像されるか。

* 「足を撫で、手を撫でて娘を育てる者という意か」(三浦佑之『口語訳古事記(完全版)』)
* 「アシナヅチ・テナヅチ」に関しては、「ナ」は「イナ(稲)」で、「アサイナ↓アシナ」の「アサ」は「オソ(遅)」の転、「テイナ↓テナ」の「テ」は「ト(疾)」の転であるから、それぞれ「晩生の稲の精霊・早生の稲の精霊」の意とする説もある。(新潮古典集成『古事記』西宮一民、一九七九)

7 ヤマタノヲロチが表しているものを考える。

発問例 ヤマタノヲロチの姿からは、どのようなことがイメージされるか。

* 「八つの頭と尾はいくつにも分かれた河口や支流のさまを、体に生えたコケや木は両岸のさまを、谷や尾根を渡る姿は蛇行する揖斐川の流れを、爛れ流れる血は崩れ落ちた両岸の山肌のさまを表し、赤い目はその妖怪性を強調する」(三浦前掲書)

* 土石流や溶岩流のような自然の猛威のイメージもあるだろう。

発問例 年ごとに来て娘(＝田を象徴する女神)を食べるというヤマタノヲロチは、いったい何を表していると思うか。

8 スサノヲが表しているものを考える。

発問例 スサノヲはヤマタノヲロチをどのように退治したか。

* 力ではなく、知恵で退治した。

* 具体的な方法の解答が出たら、抽象化してまとめる。

発問例 ここから、スサノヲはどんな神であるといえるか。

* 巨大なヤマタノヲロチに立ち向かう勇氣と、知略を備えた神。

* クシナダヒメとの結婚も含め「愛と知と勇の三徳兼備の英雄」(新潮集成)と評価される。

9 この神話が表しているものを考える。

発問例 スサノヲがヤマタノヲロチを打ち負かしたことは、どのようなことを表していると考えられるか、それぞれノートに三十〜五十程度でまとめよ。

* 自然の猛威から稲田を守りえた人間の知恵の勝利。

板書例

【この神話が表現していること】

● クシナダヒメ(↓稲田を表す)

「奇・稲田・姻」＝稲田を象徴する女神
神秘的 女神

● アシナヅチ・テナヅチ(↓稲田を育てる人々を表す)

「足(手)・撫つ・ち」＝娘の足(手)を撫で育てる神
(娘を) 霊的な力

● ヤマタノヲロチ(↓(イメージ)蛇行して流れる川の姿を表す)

「八又の・尾・ろ・ち」||八つに別れた尾の力
↳の 霊的な力

◎ ヤマタノヲロチがクシナダヒメを食べる||川の氾濫

◎ ヤマタノヲロチを退治する||川の氾濫を制御する *智恵で退治する

△まとめV原文を読み味わう

1 原文のプリントを配布する。

2 歴史的仮名遣いの読み方について、簡単に復習する。

発問例 「汝が泣くゆゑは、何ぞ」の「ゑ」は、何と読むか。

発問例 「鳥髪といふ地」「思ひて」「問ひたまひしく」「なむち」は、それぞれ何と読むか。

*細かい読み方の原則にはこだわらない。

3 範読する。

4 音読・指名音読する。

*読点ごとに区切って次々に読ませる。短いので不得意でも取り組みやすく、緊張感も持続する。

5 「八雲立つ」の歌の内容を確認する。

発問例 「宮」(神の住む家)は何のために作るのか。

*クシナダヒメと暮らすため。

発問例 「須賀といふ地に至りまして」とあるが、スサノヲが須賀に着いた時、その地は「須賀」と呼ばれていたか。

*地名起源譚であることの確認。

発問例 雲がわき立ちのぼるのは縁起がいいことか、悪いことか。

発問例 「八雲立つ」の歌はどのような気持ちから歌われた歌か、現代語訳プリントから指摘せよ。

*「喜びの歌」

発問例 この歌は主として何について(何を題材にして)歌っているか。

*「八重垣」

発問例 「八重垣」が素晴らしいと歌うことで、結局何が素晴らしいといたいのか。

*八重垣に囲まれた宮と、そこでクシナダヒメと生活すること。

6 「八雲立つ」の歌を暗誦する。

7 授業の感想をまとめ、自己評価する。

●評価規準

(1) 積極的に各作業に取り組み、他の意見を参照しながら読みを深めている。(関心・意欲・態度)
◇取り組み状況・授業態度・提出された感想・自己評価表など。

(2) 現代語訳を参照して、イラストを完成することができる。また、イラストにヤマタノヲロチの恐ろしさが表現できている。(知識・理解、読む能力)
◇取り組み状況・提出されたイラスト・自己評価表など。

(3) 現代語訳や原文を「読むこと」に積極的に取り組み、内容が理解できる。(知識・理解、読む能力)
◇発言・ノート・自己評価表など。

(4) ヤマタノヲロチの話が象徴するものについて考え、それを「書いて」まとめられる。(知識・理解、読む能力、書く能力)
◇取り組み状況・提出されたまとめ、自己評価表など。

(5) 積極的に「暗誦」に取り組み、「八雲立つ」の歌が暗誦できる。(知識・理解、話す・聞く能力)
◇取り組み状況・態度・暗誦の実際・自己評価表など。